

有徳塾会員 各位

有徳塾事務局

第18回有徳塾のご案内

謹啓 寒冷の候 皆様にはいかがお過ごしでしょうか。平素は有徳塾運営にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。2009年度の有徳塾は川勝平太先生の静岡県知事ご就任など新しい環境の中での塾運営となりましたが、ホームページの立ち上げによる塾の情報発信などもスタートいたしました。

さて、今年度最後の開催となります第18回の有徳塾は、ゲスト講師にラサール高校の永山修一教諭を迎え、「南島文化論の新しい波」（仮題）についてお話を伺うことにいたしました。

永山教諭は歴史学がご専門で、南日本新聞に「南島遺跡へのまなざし」と題する一文を寄せ、「奄美大島の特に日本の古代以降に併行する歴史には、ここ数十年の間に急速な研究の進展が見られる。…ヤコウガイやカムィヤキ類須恵器、キカイガシマへの関心の高まり、全国から研究者が集まるシンポジウムもしばしば開催されている」と紹介しています。

この地域は従来から「辺境」と呼ばれてきましたが、最近では「境界領域」という言葉で捉え直されようとしています。それは中心から遠く離れた“辺地＝どん詰まり”という点的・線的な見方から、異なる文化圏を行き来できる“領域”という面的な見方に変わるということであり、永山教諭は「歴史的意味合いの決定的な変化を示している」と高く評価しています。また境界領域は、国家の登場とともに国境線あるいは施政の境界線として「線」化していき、この「線」が南北600キロの鹿児島県内を南へ北へ動いてきたことが鹿児島県の歴史の大きな特色であるとも述べています。

かつて作家の島尾敏雄さんは、西南日本の島々の地域的な特性を「ヤポネシア文化」として捉える視座を提起しました。日本の「歴史人口学」を確立した速水融・慶応大学名誉教授（元日文研教授）は、ヤポネシア論をさらに広げた形で「東アジア海文化圏」として捉え、「東シナ海をまたいだ地域に共通の文化圏があった…それは東のアトランティスではないか」と関心を寄せています。この目線も、「境界領域」論と強く共鳴しあっているように思われます。

今回は、海洋アジアと鹿児島とのかかわりの中から地域自立と再生の可能性をさぐる有徳塾の基本に立ち返り、あらためて“東アジアの海”を見つめ直すことにしました。永山教諭からは、文献や南島遺跡などから得られた新しい知見をご紹介いただき、「境界領域」としてとらえることの意義を学び、海洋国「かごしま」の論議・認識を深めていきたいと思えます。

謹白

記

第 18 回有徳塾

日 時 平成 22 年 3 月 21 日 (日) 午後 4 時～

場 所 山形屋 7 F フェニックス

会 費 5,000 円 …

(*なお今回は、会員及び入会希望者だけの参加です)

以上

有徳塾事務局 892-0871 鹿児島市吉野町 9700-1
仙巖園事業企画室内 (担当: 有村博康)
TEL 099-247-1551 FAX099-247-9539
Email hiroyasu.arimura@shimadzu-ltd.jp

●事務局からのお願い

お仕事先やご連絡先の住所、電話、メールアドレス等に変更がございましたら事務局までお知らせ下さいますようお願い申し上げます。また、塾へのご要望などございましたら合わせてお知らせ下さい。

ご連絡先	お名前 連絡先ご住所 〒番号 TEL FAX Email
塾への要望	
その他連絡等	